

事業報告書

I. 法人の概要

1. 設置する学校、学部、学科等

大学の名称	東 北 薬 科 大 学
学部学科等	<大 学 院> 薬学研究科博士課程・後期課程 薬学研究科博士課程・前期課程 <薬 学 部> 薬 学 科 (6年制) 生 命 薬 科 学 科 (4年制) 薬 学 科 (旧課程4年制) 衛 生 薬 学 科 (旧課程4年制) 製 薬 学 科 (旧課程4年制)

2. 入学定員、学生数の状況 (平成20年5月1日現在)

学 部 学 科 等		入学定員	収容定員	現員数
大 学 院	薬学研究科博士課程・後期課程	名 5	名 15	名 24
	薬学研究科博士課程・前期課程	30	60	61
	合 計	35	75	85
薬 学 部	<新課程>※1	名	名	名
	薬 学 科	330	1,980	974
	生 命 薬 科 学 科	50	200	89
	<旧課程>※2			
	薬 学 科	(120)	—	154
	衛 生 薬 学 科	(120)	—	151
製 薬 学 科	(120)	—	155	
合 計	380	—	1,523	

※1 現員数は1～3年生のみ

※2 現員数は4年生のみ (平成18年度より募集停止)

3. 役員・教職員の概要（平成20年5月1日現在）

役員	
(理事) 定数 実任 任期	6～8人 7人 4年
(監事) 定数 実任 任期	2人 2人 4年

評議員	
定数 実任 任期	13～17人 15人 4年

教職員	
教員 事務職員	113人 43人

Ⅱ. 事業概要

1. 教育活動

(1) 薬学科・生命薬科学科 2学科の円滑な運営と 定着化	①医療薬学教育内容の 充実	○病院・薬局長期実務実習施設の確保と内容の 検討 ○共用試験への対応と検討（CBT、OSCE 各委 員会の設置およびトライアルの実施） ○ワーキンググループによる PBL チュートリアル教育 の内容検討 ○薬学早期体験学習の充実（病院等医療施設 見学会・薬局体験学習の実施） ○旧課程学生の病院・薬局実務実習及びその 事後講習会の実施
	②生命薬科学科の教育 内容、教育方法の充実	○1年生を対象に施設見学会を実施
	③カリキュラム内容の 検討	○生命薬科学科に「施設見学体験学習」の科目 を新設 ○長期実務実習に備え薬学科の5年次開講科目 を一部変更
	④薬剤師国家試験対策の 強化	○新制度の「薬剤師国家試験」について学生向 け説明会を開催 ○自学自習システム（薬剤師国家試験対策を含 むパソコン用学習支援ソフト）の導入
(2) 入試・広報活動の強化	①入試制度の見直し	○指定校制推薦入試の定着化（高校訪問を中心 とした広報活動の実施） ○推薦入試日の一本化（指定校制・公募制）
	②高校生実験講座の 定着化	○参加者17校38名（3年目）
	③「進学指導担当者の ための入試説明会」の 実施、進学相談会への 参加	○「入試説明会」（仙台、他5市で開催） ○進学相談会（10都道府県21会場に参加）
	④オープンキャンパス、 高等学校訪問等の実施	○高等学校への訪問 ○新聞・進学雑誌等への連合広告、単独広告の 実施 ○オープンキャンパスの実施 ・8月1日～2日実施（参加者1,021名） ・入試相談コーナーにて、個別相談を実施
(3) 就職対策の強化	①生命薬科学科学生の 就職先の開拓	○企業等訪問 ○生命薬科学科用の求人申込書の発送（929 件）
	②インターンシップの 充実	○生命薬科学科3年「インターンシップⅠ」 （製薬会社、CRO）の単位化
	③合同就職説明会、病院 合同就職説明会、業界 説明会の実施及び内容 の充実	○合同就職説明会（174事業所参加） ○病院合同就職説明会（73病院参加） ○業界説明会（公務員、製薬会社、CRO、 SMO等）
	④病院訪問	○青森、秋田、宮城3県73病院訪問

(4) 学生生活支援の充実	① 学生ホールのサービス改善及び施設運営方法の見直し	○ 食堂（2 F レストラン・3 F カフェテリア）の設置 ○ コンビニ形式売店の設置 ○ 部室の運営を学生に移管
	② 新入生オリエンテーションの実施	○ 松島研修旅行実施（4月5日、参加者440名）
	③ 健康管理の徹底及びそのための担当組織の強化	○ 定期健康診断及び特殊健康診断、精密検査該当者に対する学医の個別事後指導の完全実施 ○ ケースカンファレンスの実施（1～2カ月に1回） ○ メンタルヘルス講習会の開催（8・12月） ○ 休学時、復学時の面談の実施 ○ 安全衛生教育講習会の実施
(5) 国際交流の充実・促進	① スウェーデン・ウプサラ大学	○ 「学術研究協力に関する協定書」に基づく、「科学研究合意書」に調印（平成20年9月2日）
	② イタリア・カラブリア大学	○ 「学術研究協力に関する共同声明書」に調印（平成20年9月12日）
	③ インドネシア・サムラトランギ大学	○ 「学術および教育協力に関する協定書」ならびに協定書に基づいた「学生交流事業に関する覚書」、「学術協力の協定に関する覚書」に調印（平成20年10月30日）
(6) その他	① 父母教育懇談会の実施	○ 仙台市他4都市で開催（総参加者358名）
	② 生涯教育講演会の実施	○ 2回開催（総参加者353名）
	③ 高大連携授業、出張講義の実施	○ 高大連携授業（8月21日～23日、参加者延べ86名） ○ 出張講義（17校延べ18回）
	④ 学都仙台（16大学）コンソーシアム事業	○ 在仙16大学が連携（代表校 東北学院大学） ○ 内容 ・ 単位互換事業 ・ サテライトキャンパス事業 ・ 広報事業 ・ FD・SDの連携・融合事業 ・ 防災ネットワーク事業 ・ 産学連携事業

2. 研究活動

(1) 科学研究費補助費、受託研究費等の獲得による研究の推進	① 科学研究費補助費	○ 文部科学省27件：直接経費36,550千円 間接経費9,945千円 ○ 厚生労働省1件：4,000千円
	② 受託研究費	○ 12件：直接経費52,501千円 間接経費10,523千円
	③ 指定（奨学）寄付金	○ 13件：8,393千円
	④ 共同研究	○ 2件：2,810千円

(2) ハイテク・リサーチ・センター、学術フロンティア及び分子生体膜研究所における研究プロジェクトの推進	①ハイテク・リサーチシンポジウムの開催 ②学術フロンティアシンポジウムの開催 ③ポストドクターの採用	○平成20年6月13日開催 ○平成20年11月7日開催 ○分子生体膜研究所4教室（各1名）
(3) 産学連携事業への取り組み	①バイオ系民間企業との共同研究の開始 ②宮城県主催産学官連携フェアへ参加	○3年間の共同研究 ○微生物学教室及び天然物化学教室がブースを出展（平成20年9月30日）

3. 施設設備及び管理運営体制等について

(1) 施設・設備の充実	①新キャンパス整備計画・第Ⅱ期工事	○平成19年4月着工～平成20年4月竣工（図書館・情報センター、学生ホール）
	②新キャンパス整備計画・第Ⅲ期工事	○平成19年12月着工～平成21年3月竣工（中央棟）
	③学内LAN及び事務局新システムの定着化と円滑な運営	○富士通システムを導入
(2) 人事・組織	①人材育成	○事務職員の人事異動実施 ○教職員の海外留学及び研修への派遣 ○認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップへの積極的参加（2回、総参加者79名） ○FDの充実（授業アンケート、公開授業の実施） ○教職員の内外研修会への参加
	②人事労務諸制度の見直し	○高齢者雇用への対応検討（再雇用制度の発足、定年後再雇用者の基準に関する労使協定書の締結） ○教員組織の見直し（「助手補」、「副手」職の廃止、「助手」職への統一）
(3) 財務管理	①文部科学省「研究機関における公的研究費の管理・監査ガイドライン（実施基準）」により発足させた検収センターの稼働定着	
	②事務局各課の予算化に向けて	○事務局各課の前年度の決算額を基に、次年度の予算を策定（試行）
(4) 社会貢献	①附属薬用植物園見学会の実施及び内容の充実	○年3回実施（一般市民参加者、120名）
	②大学主催市民講座の実施及び内容の充実	○10月25日開催（参加者25名）

(5)その他	①日本高等教育評価機構の認証評価機関による評価結果により指摘された問題点の改善	○引き続き検討
	②創立70周年記念事業	○平成21年11月14日創立70周年記念式典を挙行予定
	③創立70周年記念事業募金活動の推進	○新入生父母に対して募金活動を実施
	④運用財産の効率的運用の推進	○国債を中心とした効率的かつ健全な運用
	⑤同窓会との連携強化策の推進	○同窓会室の設置